

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	一般社団法人リバーバンク
役職	副代表
氏名	鈴木秀典
着任日	令和5年10月1日

活動月	令和6年9月(着任1年0ヶ月)
主な活動	1.森の学校、タノカミステーションの運営 2.すっがほい祭、高田高区民祭参加 3.垂水視察 4.薩摩会議・マーケティングセミナー 5.協力隊のつながり

1.森の学校、タノカミステーションの運営

森の学校は9月は利用者が少なく、落ち着いた営業となり、今年始めた田んぼの世話や草払などの管理に時間を割くことが多かった。

タノカミステーションはみなコレクーポンが周知し始めたこともあり、多くのお客様にご飯を楽しんでいただけた。

ずっと検討していたかわなべ牛を使ったジャーキーが完成したので、コレから販路を作っていきたい。



2.すっがほい祭、高田高区民祭参加

第一回目となる小野のすっがほい祭、そして久しぶりの復活となる高田の高区民祭りに参加者としても、出店者としても出演者としても参加した。地元の自治会で考えられた祭りは自分自身初めての参加になるので、そのパワーと団結力にとにかく驚いた。とてもいい時間になったのだが、実行委員にもっと地元の若い世代が入ってもっと子ども等にも楽しんでもらえるコンテンツを考えていけるとより良い祭りになると感じた。



3.垂水視察

地域おこし協力隊活動報告書

リバーバンクで行うサマーキャンプの派生系として企画を進めている垂水の猿ヶ城森の駅たるみずを訪問した。施設のすぐ隣を川が流れ、さらにジオパークとして様々な地層が見れること、コテージの設備が充実していることから、子ども達の学びの場として協働しながら提供していけるように検討していく。



4.薩摩会議・マーケティングセミナー

3日間の薩摩会議は150年後の未来に何を残すか。というテーマで皆が自分の事業をベースに考え、話し合い、そして仲間となっていくとても濃密な時間となった。

また、マーケティングセミナーを通して、やはり地域に必要なのはマーケティングのマインドだと再認識をし、作ることが得意な南九州市もどうしても流通に乗せられないいいものが捨てられれしまいがちになるが、もう一度価値を考えて新しい売り先、消費者を見つけるような動きをしていきたいと思った。



5.協力隊のつながり

薩摩川内市で行われた、さつま町の協力隊3名の活動を聞いてきた。

「薩摩のさつま」として商標を与え、さらに生産者が1年間のつながりをもって取り組むその仕組みにとっても面白さを感じたことと、地域の魅力をうまく発信していることは南九州市でも見習ってみたいと感じた。

